作文の部　専門学校生の部

最優秀賞

繋がる未来

東海工業専門学校金山校 建築工学科　1年
佐　野　真　奈　美

私が初めて建築業という職業に興味を持ったのは、アパレル業に務めていた時でした。

好きな洋服やファッションアイテムに囲まれながら、自分自身が最も得意とする接客を通して販売する仕事が、自分にとっての天職だと考えていました。アパレル業や接客業は女性が際立つ業界です。専門的な資格よりも、感性で働ける環境だからなのかもしれません。そういった点ではアパレル業界と建築業界は真逆であり、専門外の人々には、仕事内容や業界の動きというものが捉えにくいと思います。実際に、私自身も業界に興味があっても知らない事ばかりでした。アパレル業にて販売員として毎日忙しく働き、それでも充実した日々を過ごす中で、とある求人情報サイトを何気なくみていた時に、地元の建築事務所にて、事務職に空きがある事を知りました。その時に何故かとても心が躍るのを感じ、建築業界について右も左も分からないまま、転職しました。

元々、ヨーロッパなどの西洋建築や歴史的建築物が好きだった事もあり、住宅や店舗デザインなどにも興味がありましたが、自分自身の学歴や経験、また女性という立場から建築業に務めるという考え自体がそぐわないのでは、と思っていました。また、実際に建築業の第一線で活躍されている女性は少なく、どうしても男性社会的なイメージをもっていたので、建築業に僅かながら携われる機会に巡り合えた事に満足していました。

それから月日が流れ、仕事にも慣れた頃、あの東日本大震災が起きたのです。あの日を境に、私自身の心に大きな変化が訪れました。

建築業に務めて以来、建築の奥深さや、厳しさ、想像を超えた素晴らしさを知る事ができ、それまでの事務としてのサポート業務ではなく、厳しいながらも第一線で頑張ってみたいと強く思うようになりました。もちろん震災での津波の被害や地震での被害を減らせるような建築物を自分自身の力で造りたいという夢持つようになりました。

震災で家を失い、大切なものを失ったという苦しみは、実際に被害を受けていない私達には全てを理解する事はとても難しい事だと思いますが、これから何をすべきなのか復興とは何かと考えた時に、今の自分自身の力では何も出来ないという現実に無力さと、恥ずかしさを感じました。今の自分はただ遠いところから、募金活動や支援物資を送るだけの事でしか、支える事が出来ないのだと思い知らされ、具体的に何も出来ていない事に苛立ちさえも感じました。この先、被災地の復興に携われるかどうか分からないけれど、今の自分がすべき事は何かと思い、時間はかかるかもしれないけれど、建築を一から学び少しでも力になれたら、と強く思うようになりました。

社会から一度離脱し、どう道を切り開いていけば良いのかと悩みましたが、自分がこの先進みたい道を知った以上、躊躇する間もなく突き進むべきだと思い、建築業に携わる多くの先輩方にアドバイスを頂き、支えられながら、二級建築士の資格取得に向けて、学業に進む事にしました。

正直なところ、今でも安定した職を離れ、学業に努める事が本当に良かったのかと悩むばかりです、それに、例え建築業界という厳しい世界に仲間入りが出来たとしても、すぐに第一線で活躍出来るような甘い業界ではない事は十分に承知しています。それでも、この建築業界を目指し、また大きな夢を志す事で、自分自身を高め、成長に大きく繋がるのではないかと思っています。また、これから先の建築業界を更に素晴らしいものにしていきたいと思い、知識や経験だけではなく、人と人との繋がりを大切にしていき、男性にはない細やかな視点や発想からこの業界をより一層、盛り上げていきたいと思っています。

有言実行とは、なかなか上手くいかないかもしれませんが、女性や若い人の力でも、夢を持ちながら活躍し輝いていけるような、希望にあふれた建築業界に少しでも近づけていけるように頑張っていきたいと思います。

震災という悲しい出来事から学び、未来に繋がるような業界を創り上げる事に役立つ人材になることが出来らと思います。